

シラクチカズラの苗木の植栽地整備とシカ防護ネット設置を行いました

平成30年11月13日
徳島森林管理署

1. 徳島森林管理署は、本年2月に締結したシラクチカズラ資源確保協定に基づき、10月17日～11月7日にかけて、徳島県三好市、香川大学農学部との三者が連携して、祖谷のかずら橋の架け替え資材のシラクチカズラ（学名サルナシ）の苗木の植栽地の整備、シカ防護ネットの設置、果実活用方法の検討を行いました。
2. 協定締結後の初年となる平成30年度は、三者が連携して、国有林をフィールドにシラクチカズラの優良母樹の確保、挿し木・種子採取によるコンテナ苗の育成、果実の活用方法の検討を行うこととしています。まず、10月17日、徳島森林管理署と三好市教育委員会が共同で、三好市の小島国有林内のシラクチカズラの苗木の新たな植栽地において、苗木の初期成長に必要な陽光を確保するための上木伐採を行いました。11月7日には、ニホンジカの食害からシラクチカズラの苗木を守るためシカ防護ネットを植栽地に設置しました。



上木伐採後の植栽地の様子(H30.10.17)



シカ防護ネット設置の様子(H30.11.7)

3. その後、11月10日には、つる性植物の権威の片岡香川大学副学長の現地指導の下、安定的に苗木を育てるための挿し木を採取する母樹の選定(5本)と植栽方法の確認を行いました。シラクチカズラの資源確保に向け、今回選定した母樹から定期的に挿し木を採取し、4～5年程度育苗した上で、これまで地元の小・中学生が育てた苗木と併せて、今回整備した国有林内の植栽地に植付けしていきます。また、同日、片岡副学長、三好市農業振興課、徳島森林管理署の三者で、シラクチカズラの苗木育成や果実の活用方法等について意見交換を行いました。この中で、来年度から三好市が生産量調査、育苗用ハウス整備などを計画・実施した上で、三者が連携して、シラクチカズラの苗木育成と果実の商品化に向けた取組を行っていくことを確認しました。



シラクチカズラの優良母樹を選定
(H30.11.10)



片岡香川大副学長による苗木の植栽方法の指導の様子(H30.11.10)



片岡香川大副学長、三好市、徳島森林管理署の三者による意見交換の様子(H30.11.10)

4. 徳島森林管理署は、今後も、三好市、香川大学農学部と連携し、国有林を活用しながら、国指定重要有形民族文化財で貴重な観光資源である祖谷のかずら橋の架け替え資材のシラクチカズラの資源確保と果実の商品化に向けた取組を行っていきます。

祖谷のかずら橋のシラクチカズラ資源確保協定の締結

- 徳島県三好市の「祖谷のかずら橋」は、四国の秘境といわれる徳島県三好市西祖谷山村にしいやまそんにある国指定重要有形民俗文化財で、多くの観光客が訪れる重要な観光資源であるが、3年に一度架け替えが行われ、山間部に自生する架け替え資材のシラクチカズラの資源確保が課題になっている。
- このため、平成30年2月、つる性植物の専門的な知見を有する香川大学農学部、徳島県三好市、徳島森林管理署が協定を締結し、三者が連携・協力して、国有林を活用しながら、シラクチカズラの資源確保と果実の活用を推進。平成30年度は優良母樹の確保と挿し木・種子の採取と増殖、実の活用方法の検討等の取組を推進。

- 香川大学農学部、三好市、徳島森林管理署のシラクチカズラ資源確保に向けた連携協定（平成30年2月23日）



- 香川大学農学部、三好市、徳島森林管理署のシラクチカズラ資源確保の取組



祖谷のかずら橋



サルナシの実(香川大農学部で撮影)



片岡教授による育苗指導



活着した苗木